大妻同窓会長野

ご挨拶

一般財団法人大妻コタカ記念館
会長　井上　小百合

大妻同窓会長野の皆様にはお健やかにお過ごしのことと存じます。

日本中いたるところで自然災害や天候不順が起こっている昨今ですが、四季の移ろいを目にし、肌で感じられることはどんなに幸せなことかと痛感いたします。

昨年は同窓会設立20周年を迎えられ、広い長野県の遠くからも皆さんがお集まりになり、節目にふさわしい機会となったことは誠に喜ばしいことでございました。

また、長野の皆様のご協力により先輩諸姉へのインタビューを、諏訪と伊那で２回にわたりさせていただき、多くのことを知り得ましたことは記念会にとっての大きな財産になるとともに、立派な先輩がいることを誇らしく思いました。

更に会誌「ふるさと」に掲載しましたが、諏方大祝家と大妻家の関係を前諏訪市博物館学芸員の高見俊樹氏に教えていただいたことも大きな収穫となりました。残念ながら諏方大祝家は途絶えてしまいましたが、最後となった諏方頼宣、キマ夫妻そしてこのご子息弘氏へのコタカ先生の深い愛情を思い知ることができました。

このような活動を通して長野の皆様とのつながりを一層深められたことは、何物にも代えがたい喜びであり、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

大妻コタカ記念会では、広島県世羅町に残る大妻コタカ先生の生家を、当主の熊田喜賢さんから、昨年11月に譲り受けることとなり、今後大妻コタカ記念会が生家の管理をしていくことになりました。コタカ先生は自著『ごもくめし』で、故郷について次のように書かれています。「…帰郷して久恵（生家のある場所一帯の古い地名）を訪れますと、山を見るにつけ、子供のころ嫌々ながら通学した道を見るにつけ、すべてが懐かしい思い出を呼び戻し、いつも温かく私を迎えてくれますし、永遠の心のふるさととして、いつまでも愛惜の念を捨てきれません。」

コタカ先生の愛した久恵の里、三川ダムのほとりの風光明媚な場所にたたずむ生家を訪れると、「勉強したい」という強い志を持って東京に出たコタカ先生の並々ならぬ向学心を感じます。どうぞ皆様も一度訪れてみていただきたいと思っております。

大妻同窓会長野が次の30周年に向けて、力強く歩んで行かれますことを祈念いたします。

第21回 総会報告とご挨拶

代表　遠山淳子

会員の皆様には、お元気でお過しとの事と思います。

この度、前任の児玉幸子様より、引き継ぎ致しました遠山淳子と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

昨年は、大妻同窓会長野設立二十周年を迎え、犀北館ホテルに於いて、記念会より井上小百合先生をお迎えし、前理事長花村邦昭先生の講演会を行いました。現在の母校の様子や、大妻コタカ先生と花村先生の観音様繋がりのご縁のお話など和やかな講演会でした。

本年は、駒ヶ根高原リゾートリンクスに於いて、五月十五日総会を行います。近くには、中央アルプスロープウェイや早太郎伝説の光前寺などがあり、緑豊かな清々しい所です。ちょっと一日、リフレッシュしてみませんか！　是非皆さんお出掛下さい。お待ちしております。

花村理事長様

大妻コタカ・大妻良馬研究の調査にご協力いただいた方々からのひとこと

昭和23年家政科卒
松澤　美津江

大妻学院入学の為上京した私、新宿駅で目にした光景は「これが東京、一面の焼野原」戦争の恐ろしさが身にしみました。

入学式、まだまだ焼跡の残った校舎、式にはコタカ先生のお姿も見えず、校歌でなく外のうたを歌った様に記憶しています。

教材を見つけるのも大変で参考書は古本屋めぐり、傘がこわれても買い換える事が出来ず困っている人が多かった。そんな時コタカ先生は浅草の修理屋さんに行き習って来て助手の先生が生徒におしえて下さいました。

卒業後は良く同窓会に顔を出して下さりお逢いする事が多くなりました。

或る時皆で「オレンジ」を食べている時先生は皮の汁を手の甲にぬり「肌が良くなるよ」と笑顔でおっしゃり、又私の着物の着方を見て「私もそうだけどあなたも合妻巾を広く取ると着易いよ」とアドバイスをして下さり、本当にうれしかった事をおぼえています。

松澤さんお手製の織物（左）とブローチ（右）

大妻記憶遺産部の聞き取りに

昭和41年3月家政学部家政学科卒
小池　睦美

五十数年前の若き青春時代、幸運にも家政学部で学ばせて頂いた。市ヶ谷加賀寮入寮、八畳間五人の仲間が、お姉様と呼ぶ上級生と共に、半年毎の部屋替えの間、語り合い、銭湯に行き本当に仲良く過せたと思う。

最も緊張して大変だったと心に残る記憶は東京オリンピックが行われた昭和三十九年、大妻コタカ先生が勲三等宝冠章という教育功労者叙勲をされた時、学部三年生だった私がたまたま学友会長をしていたので、お祝の式典に学生代表でお祝辞の大役を担うことになった。申し上げるお祝の文言をどう考えれば良いか大いに悩み「コタカ先生は、にわとりが卵を抱いて温めるように、大きな愛で私共学生を包み導いて下さっている」というような内容で巻紙に書いたように覚えている。席に戻った時の安堵感は忘れられない。

小池さんの卒業記念品の「校歌のオルゴール」。校章と校訓「恥を知れ」のプレートが付けられている。

また、当時家政学部は一クラス七十名位だった。実験実習は半数ずつの授業で、食品学だったと思うが、バスで群馬県のコンニャク製造の家内工業見学とか麩の製造工場とか見て回り濃密な授業が行われたと思います。小石川グランドでの体育祭、学友会主催の大妻祭など懸命に取り組んだ思い出は尽きません。五十年以上前に「大学に進み学ぶことは、女子でもいつか社会の役に立つ。いくなら四年に」と両親に進めてもらい、その言葉どおりに大妻に学ばせて頂いたお蔭で「恥を知れ」が自分の心の柱となり誇りとなり今日に。あの十八才の素直な心が、すべての原点にあったと思っている。

伊那での聞きとり調査にご協力下さった同窓会の皆様

大妻コタカ先生の生家を訪ねて

浜　江つ

三年前大妻コタカ生誕一三〇年記念事業で生家訪問の行事に、長野支部長の宮坂徳子さんと参加させていただきました。その後、私達のクラス会で世羅の旅、生家訪問のことをお話しましたところ、有志６名が是非行きたいと云うことになりました。前回は学院のスケジュールに入れていただき、何の不安も無い旅行でしたが、今回各地に居る友を一本の新幹線に同時に乗ることから始まり、ホテルの手配や生家までの行程など、ＪＲの時刻表を頼りに何回も作りました。後で思うと、これは至福のひとときだったと思っています。生家の伏原で夫婦が細かく連絡につき合って下さり、助かりました。

いよいよ三川ダム湖が見えて生家に着くと、静かに湖面を眺めておいでのコタカ先生に（胸像）お逢いし、私達は胸を熱くし、立ちつくしました。心づくしの“ごもくめし”のお膳をかこんで、伏原さんのお話（君かげ草）のスズランの由来など、部屋に飾られたコタカ先生にまつわる説明を聞いて、時の経つのも忘れていました。よく手入れされた庭は、時々コンサートが開かれる由、部屋の隅には、和服のリメイク作品や、手芸品がありました。高齢化社会の中で、生家の維持管理がむずかしいと云われる話に、私達は重い土産をもらった想いで帰りましたが、大妻コタカ記念会で、しっかり守って下さることを知って、ほんとうに安堵しました。

学院同窓生は、一度は生家を訪れていただきたいと思います。

あれから私達は再会して、久恵の里の先生を思い出す旅行をしました。八十路にある私達の足どりはにぶくとも、気持は昔のままでした。

諏訪在住の大先輩のお話を伺って

宮坂　徳子

29年７月８日、同窓会会長井上先生、大学博物館大妻コタカ・良馬研究所の髙垣先生の聞きとり調査に同行させていただき、Ｓ18年卒の原和子様、少しお若い熊澤のぶ子様のお話を伺うことができました。お二人共、教員の資格取得を目指して進学、卒業後は諏訪で教職につかれ、とくに原様は定年まで教育者として一筋に歩まれました。お二人共、地元誌編集に携わるなど、今もご活躍中です。

戦時下の大妻教育の実態、瓶細工の夏季講習の様子など生き生きと話して下さり、卒業アルバム、卒業証書、教育免状も大切に保管され、コタカ先生、母校への深い思いを感じました。（浜江つ様、清水文子様も同席されました）

岡谷での聞きとり調査にご協力下さった同窓会の皆様

大妻神社の例祭

秋晴れの９月23日、松本市梓川倭の大妻神社の秋の例祭に、井上小百合先生、髙垣佐和子先生にもご参加していただき参列しました。

第22回 大妻同窓会長野　平成30年度総会のご案内

日時　平成 30 年 5 月 15 日(火)

午前11時～　受付

午前11時30分～　総会、懇親会

場所　駒ヶ根高原リゾートリンクス

〒399-4117　長野県駒ヶ根市赤穂5-1086

TEL 0265-82-8511

会費　6,000 円

註）お手数でも出欠席にかかわらず同封のハガキを 4月30日(月)必着 で返信くださいますようお願いいたします。

連絡先　木下　俊子　　TEL 0265-24-5593